

都市整備常任委員会他都市調査報告書

自由民主党 南 ま さ み

期 間 : 平成30年10月31日～11月 2日

- 視察都市等視察項目：Ⅰ. サイクリングポートみなとオアシス尾道
みなとオアシス瀬戸田について (広島県尾道市)
- Ⅱ. 道路不具合通報アプリ
パ撮ローズについて (広島県福山市)
- Ⅲ. ヴィッセル神戸練習場
いぶきの森球技場について (兵庫県神戸市)

所 感 等

Ⅰ. サイクリングポートみなとオアシス尾道・みなとオアシス瀬戸田について

視察の目的及び概要：

平成11年5月の本州と四国とを結ぶしまなみ海道の開通にともない、尾道は市の中心部へ訪れる市民、観光客やしまなみ海道サイクリング利用者が行き交う地域となっている。尾道市では、西御所港湾倉庫を観光交流拠点とし、商業・サービス機能、イベント機能を付加して賑わいの創出を図っている。また、瀬戸田港「みなとオアシス」は、港内のターミナルビル周辺を、観光・地域情報やレンタルサイクルなどの交通サービスを提供し、訪れる人が町を探索する際の拠点としており、それらの様々な取り組みを視察する。

事業概要

尾道市は、広島県の南東部、瀬戸内海のほぼ中央に位置し、瀬戸内しまなみ海道に加え、平成26年3月に全線開通した中国横断自動車道尾道松江線を含め、「瀬戸内の十字路」としての発展が期待されている。市では平成22年度～24年度の3ヶ年間に、観光資源基盤整備事業、港湾観光整備事業等を活用し事業費2億7千万円をかけ、尾道糸崎港西御所地区に、民間活力の活用により既存の県営2号上屋を再生した。全国初のサイクリスト向けの複合施設「ONOMICHI U2 (オノミチ ユーツー)」をオープンした。また、瀬戸田港「みなとオアシス」は、住民参加で組織する「NPO法人 せとだ港

房」が運営し、港から続く商店街と一体となって、周辺でのフリーマーケット開催や臨時クルーズ船の運航、プレジャーボートの係留などで賑わいを創出している。

所 感：

「サイクリングポートみなとオアシス尾道」は、日本遺産に認定された尾道水道、風光明媚な尾道の市街地に隣接したウォーターフロントに位置し、エリアにはサイクルショップ・ベーカリー・雑貨ショップ・夜景が楽しめるバーがある「ONOMICHI U2」、乗船チケット売場・レストスペースやホテル機能を持つ「ポートターミナル」、様々な音楽コンサートや講演会が開かれる「しまなみ交流館」や年間を通じ各種のイベントが開かれる緑地広場の「東御所緑地」で構成され、サイクリストのみならず一般市民、観光客が楽しむことのできるようになっている。また、隣接するエリアを歴史まちづくりゾーンに指定し、回遊性の向上を図るとともにロープウェイのある千光寺、西園寺、浄土寺などの階段の手すりのライトアップや船のイルミネーションなど、夜間景観事業にも力を入れ、滞在型の観光振興を図る工夫がされていることは評価できるが、一方で宿泊できるホテル数などが限られており、今後の課題となっている。本市に於いては、久里浜港がみなとオアシスとして登録されているが、残念ながら観光客のみならず市民が楽しめる施設にはなっておらず、尾道市の取り組みは、今後の本市に於けるみなとオアシスの集客促進や回遊性の向上など参考となる取り組みと考える。

*「みなとオアシスとは」
地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するもの。



II. 道路不具合通報アプリ「パ撮ローズ」について

視察の目的及び概要：

市と市民を結ぶ新たな連絡手段として市が管理する道路の損傷場所等を、写真とともに通報できるアプリ「パ撮ローズ」を導入し、通報された内容を担当部署が確認、状況に応じて補修や応急処置を行う取り組みについて視察する。

事業概要：

市民などの道路利用者が、市道上における舗装の損傷や上下水道の漏水、マンホール蓋の不具合などを発見した時に、自身のスマートフォンから現場の写真と位置情報を併せて通報できるアプリを導入し、市民通報アプリとして平成30年4月より運用を開始している。使い方は、アプリをダウンロードしメニュー画面に沿って入力していくと、担当部所である土木部土木管理課へ不具合レポートが送信される。但し、通報者へ対応結果を送信するために、インストール後にメールアドレスやユーザー名等の登録が必要。現在の登録件数は885人、今年度の通報件数は488件となっている。導入経費としてアプリ導入に182万円（他市で開発されたものの転用）、サーバー、スマートフォン、システムのアップデート等に年間220万円かかっている。

所 感：

福山市では、土木部土木管理課による年に5回の一斉点検パトロールによって確認された箇所（1,000ヶ所以上/年）の補修を行うとともに、280名にのぼる地域で推薦された有償の土木常設員が各学区ごとに配置され、地域と行政とのパイプ役となり、道路、堤塘、溝渠、溜池等の維持管理を円滑にして住民の福利を図っていることは、本市に於ける道路管理手法と大きく異なる点であり興味深い。また、通報アプリ「パ撮ローズ」を導入することにより、①写真による損傷状況の詳細な把握が可能 ②現場の正確な位置をパソコンの地図上で確認できる ③広く、多くの情報が寄せられるなど、より円滑な現場対応につながる効果が見られる。現在、登録者数が伸び悩んでいるとの事で、市民への周知方法に更なる工夫が必要と思われる。また、私道、県道、国道など市では対応できない通報や補修以上の処置が必要な場合の対応等に更なる検討が必要と思われるが、市道上における不具合状況の把握を様々な視点から取り入れ、より迅速な対応を可能にしていることは、本市における道路管理行政に役に立つものと考えられる。



因みに、緊急性の高いものは電話による通報が多いとの事であるが、パ撮ローズにより通報された情報は、パトランプと呼ばれている専用のPCに取り付けられたランプが点灯することにより即時の対応を可能にしていることは評価できる。また、「パ撮ローズ」の呼称は、福山市の市花である薔薇とパトロールからついたとのことで、市民にとり覚えやすく親しみやすい呼称であると言える。

Ⅲ. ヴィッセル神戸練習場「いぶきの森球技場」について

視察の目的及び概要：

平成17年に建設したハイブリッド芝2面・人工芝1面の充実した施設で、現在、ヴィッセル神戸の練習場として使用され、施設管理を楽天ヴィッセル神戸株式会社と随意契約を結んでいる公設民営の施設について、球技場の整備に至った経緯、建設にかかった経費、国庫補助などの有無、年間維持管理経費、指定管理契約等を視察し、本市での久里浜における横浜Fマリノス練習場建設・運営の参考とする。

事業概要:

平成7年に天然芝グラウンド2面とクラブハウスを旧いぶきの森球技場に整備し、平成16年～18年にかけて、ハイブリッド芝グラウンド2面・人工芝グラウンド1面・クラブハウス・駐車場を有する施設を、現いぶきの森球技場に整備移転した。施設の管理は、市の外郭団体である楽天ヴィッセル神戸（株）が行っている。練習場整備費は合計6億5千8百万円で国からの補助は受けていないが、2002年FIFAワールドカップサッカー大会日本組織委員会より、1億2千6百万円の交付を受けている。また、施設は土・日を中心に、半日単位で年間100コマ以上を市民利用としているほか、全国高校女子サッカー選手権等の会場としても使用されている。

所 感：

神戸市では、平成6年にJリーグのプロサッカーチームを誕生させるため練習場を整備し、「神戸にプロサッカーチームをつくる市民の会」とともにサッカーチームを誘致したことは、行政のみの主導ではなく、市民を巻き込んだ誘致活動であり好ましい。場所の選定に当たっては、中心部である三ノ宮一極集中ではなく郊外、旧いぶきの森球技場へ整備するなど、街を計画的に創る工夫がされていることは、本市のDeNAベイスターズ練習場の追浜誘致、横浜F・マリノス練習場の久里浜誘致に通じるものがある。維持管理経費は、球技場を普通財産と位置づけ賃貸借契約により委託先へ貸付を実施し、賃貸料として平成30年度に約9百20万円を市が受取り、市からは市民向け一般開放の委託料として1千80万円を委託先へ支払っている。賃貸借契約は、市民スポーツの

育成・振興に寄与するとのことで、随意契約となっている。また、地域との交流事業、活性化事業として、練習の一般公開や夏祭りなど市民に開かれた取り組みがされているなど、本市に於ける、横浜F・マリノス練習場設計・整備、年間維持管理費、指定管理契約形態、地域交流・活性化や市民の一般利用など参考とすべきものとする。

